

クマのプーさん展公式図録 百町森のうた



シェパードの絵で、もっとプーを好きになる

1950-60年代にかけて描かれた色あざやかな原画と、プーの魅力にせまるコラムをじっくりと楽しめます。ページをめくるとプーがそっと傍にいます。ずっと大切に、手元に置いておきたくなる特別な本。プレゼントにも。

がまくんとかえるくんができるまで アーノルド・ローベルの全仕事



「ふたりはともだち」シリーズを 読み返したくなる！

がまくんとかえるくんのラフスケッチをはじめ、お話や言葉選びを大切に制作過程、子どもたちが証言する作者ローベルのこと。懐かしさと新しさを楽しめる、ボリュームたっぷりの展覧会図録です。

ちいさなぬくもり 66のおはなし



眠るまえに、ひとつずつ

ミッフィーの生みの親であるディック・ブルーナをよく知る森本俊司さんが紡いだエピソードは、読むとほっとした気持ちに。ブルーナさんの子どもに対する優しさが、じんわりとしたぬくもりとなって伝わってきます。

エルマーのぼうけん展



りゅうの背にふわりと乗って、ぼうけんの旅へ

しま模様のかわいらしいりゅう、リボンを結んでご満悦のライオン、にんまりとキャンデーをしゃぶるワニ…思い浮かべるだけで、ワクワクがよみがえってきますか？ 今も愛され続ける「エルマーのぼうけん」シリーズをさらに楽しめる1冊。

IMAGINARIUM



新しい視点で楽しむ junaida 作品

ヨーロッパを思わせる謎めいた世界に、細密に描きこまれた人物や背景。鮮やかな色彩の中に、明るさと闇が共存する不思議な世界観が注目を集めている画家・junaida (ジュナイダ)。Junaida 作品の今までとこれからを一望できる1冊。

すきのあいうえお



みんながやったらいいね、と谷川はいう。

「すき」は、誰もが自由に思い、表明することのできる、明るく肯定的な感情だ。自分の「すき」を言葉にしてみると、ああそうか、と、忘れていた自分を発見する。そして嬉しくなって、自分のことがすきになる。そんなことを提案する、おもしろい本だ。

ぼうけん図書館

エルマーとゆく 100冊の冒険



子どもと、子どもだったすべての人たちへ

1950-60年代にかけて描かれた色あざやかな原画と、プーの魅力にせまるコラムをじっくりと楽しめます。ページをめくるとプーがそっと傍にいます。ずっと大切に、手元に置いておきたくなる特別な本。プレゼントにも。

谷川俊太郎 絵本★百貨典



絵本は楽しい！ 面白い！

むかし読んだあの絵本、この絵本。懐かしくて新鮮な172冊がこの1冊に！絵巻物のように次のページへと連なるデザイン、谷川さんの人柄が伝わってくるインタビュー、たくさんの詩や言葉から、生きることに對する思いが伝わってきます。

ここはおうち



いきたいところへ いっちゃん わたし

詩人・谷川俊太郎と画家・junaida が、往復書簡のように言葉と絵を交わして編んだ絵本です。おうちからおでかけする「わたし」と一緒になって、読むひとも物語のずっと奥へ奥へと旅するような、そんな喜びに満ちた一冊です。

ぐりとぐらのたまご



しあわせの本『ぐりとぐら』をもっと味わう

子どもたちが大好きな『ぐりとぐら』は、大人もしあわせになれる本。描かれている雑貨や器、草花に目を凝らせば、暮らしにとって大切なことが見えてきます。改めて絵本を開いて、絵とことばを味わいたくなる、そんな本です。

スヌーピーミュージアム展



スヌーピー好きに贈る永久保存版

スヌーピーをはじめ、個性豊かなキャラクターたちが登場するアメリカの新聞コミック『ピーナッツ』の世界のすみずみまでを紹介。原画約 400 点を取めた別冊のコミックブックつき。ユーモアたっぷりのエピソードをお楽しみください！

COJI COJI FAN BOOK コジコジのすべて



コジコジを愛するすべての方へ

大人もドキっとするような含蓄ある言葉やナンセンスなギャグ、キャラクターのモヤモヤ、絡みあう人間模様など、コジコジワールドを徹底解説。名場面の漫画原画やカラー扉絵も紹介。コジコジを愛するすべての方へ贈るコジコジ決定版。

今こそ、ルーシー！ LUCY IS HERE



自分らしく生きるルーシーらしさがいっぱい！

ルーシーは「ピーナッツ」いちのガミガミ屋。チャーリー・ブラウンに意地悪し、スヌーピーとは時にいがみ合う。でも、恋するシュローダーの前ではかわいらしい一面も。そんなルーシーのエピソードをたっぷり紹介。ルーシーのファッションも見どころです。

次郎にもきいてみた。 ブツブツ問答集



モヤモヤする 100 の問いに、今度は次郎が！

コジコジのツッコミ役・半魚鳥の次郎は、カッコつけてもカッコつかない。面倒くさがりなのにやさしく、ツンデレ。そんな次郎の言葉はいつも等身大で親身なもの。何も解決しなくても、励まされた温かみがじんわりと残る、不思議な一冊！

コジコジにきいてみた。 モヤモヤ問答集



読めば脱力、元気になる一冊！

『ちびまる子ちゃん』の作者さくらももこさんの、もうひとつの人気コミック『COJI-COJI』。思ったままの気持ちを口にするコジコジの言葉を一問一答で紹介。とぼけた答えから、本質を突く哲学的な一言に思わず納得。

ホリデー HOLIDAY



季節のさまざまなホリデーを楽しもう！

ハロウィーンやクリスマスなど、いつもとは少し違うハッピーな予感に、スヌーピーやピーナッツ・ギャングはそわそわ、わくわく。ホリデーは、街や家をいろどる飾りや贈り物と人を想う気持ちで、ぽかぽかと温かなものになります。

Food in PEANUTS きみの大好物はなに？



みんな大好きな食べものがいっぱい！

子どもたちの世界を中心に描かれる『ピーナッツ』。スヌーピーをはじめ、みんな食べることが大好き。ドーナツやマシュマロといったアメリカの日常的な食べものをピーナッツ・ギャングと一緒に味わえる楽しくておいしい1冊。

Laugh and Smile しあわせは、みんなの笑顔



いつだって、どんな笑いもユニーク！

大声で笑ったり、微笑んだり、ニヤリとしたり、いつだって笑いは大切なもの。スヌーピーやピーナッツの仲間たちの、笑いについてのユニークなエピソードがもりだくさん。読みながら、いろんな笑いを楽しんでください。

旅するピーナッツ。 TRAVELING PEANUTS



珍道中も楽しい！旅は非日常に行く冒険

「ピーナッツ」で旅といえば、サマーキャンプやビーチ、それにスヌーピー隊長率いるビーグル・スカウト。日々の出来事が多く描かれる「ピーナッツ」にあって、旅は非日常に行く冒険！スヌーピーやピーナッツ・ギャングのいろいろな旅を楽しめる1冊です。

ちいさなベストフレンド ウッドストック



スヌーピーの親友・ウッドストックの小さな本

ウッドストックは最も小さくてかわいらしく、けれどもちょっぴり謎に包まれた存在。スヌーピーにしかわからないこと、スヌーピーだから理解できること、ふたりでいれば、どんな困難も乗り越えられる。存在感のある小さな本。

かお PLAY!



本気で遊べるワークブック

顔の自慢のところを描いてみたり、いろんな顔を切って MIX させて遊んだり、丸いシールを貼って顔を作ってみたり、いろんな角度から顔を遊びつくす、tupera tupera 渾身の1冊。子どもから大人まで、笑いながら本気で遊べるワークブック。

どうぶつかいぎ展



ユーモアは世界を救う！

ドイツの作家エーリヒ・ケストナーが描いた絵本『動物会議』（1949年）を、現代のアーティスト8人が再解釈を加えリレー形式で表現した展覧会の公式図録。会場写真と参加作家の濃密なインタビューとで戦争について考えます。

PLAY! MAGAZINE 1



変わりゆく「途中」の街、立川の生きた魅力

2020年、東京・立川にある複合文化施設「PLAY!」のオープンに先がけ刊行された、ローカル・アートマガジン。写真家、イラストレーター、漫画家らがアートの街・立川を紹介。tupera tupera の「かおてん。」の準備風景も収録。

小さなデザイン 駒形克己展



「小さくあること」の大切さに思いをはせる

国際的に注目を集める造本作家 / デザイナーの駒形克己。「小さなデザイン」から、作り手・クライアント・受け手との、小さく緊密な関係性を生み出す。子ども向けの絵本からブランドデザインまで、幅広い駒形ワールドを堪能できます。

Paul Cox Box



展覧会を持ち帰ろう。

展覧会「つくる・つながる・ポール・コックス展」をそのまま持ち帰るコンセプトで作られました。段ボールでできた箱の中には、ポスター、テキスト、ゲーム、写真、そしてポール手描きのプレゼントが。知的でユーモラスなたくらみが詰まったアートブック。

ONI のすべて ～トンコハウスと堤大介、旅の途中～



光による映像の美しさの秘密がここに

3DCG アニメーション『ONI～神々山のおなり』の制作過程、圧倒的な映像美の秘密やキャラクター、世界観のコンセプト。堤大介とロバート・コンドウが立ち上げたアニメーションスタジオ・トンコハウスの哲学が詰まった1冊。

オバケ？



ただひたすらにオバケを楽しむ！

古くから世界各地でその姿を絵画に写され、文学、漫画、映画等々に登場するオバケ。オバケとは何だろう？参加クリエイターたちが「わたしの愛するオバケ」として書き下ろした作品、オバケ研究レポートなど、様々な視点からオバケについて考えます。

エリック・カール遊ぶための本



エリック・カールで遊ぼう！楽しもう！

色鮮やかな原画作品や、長島有里枝さんが撮りおろした子どもが絵本で遊ぶ様子、アメリカにあるエリック・カール絵本美術館のワークショップレポートに加え、tupera tupera によるメッセージなど、エリック・カールを楽しむポイント盛りだくさん。

おひさま 矢部太郎の漫画



ゆっくりと心の日光浴をしてみませんか？

人を想う優しい気持ちや温かいまなざしに、ふっと笑わせてくれるエピソード。人生のもろもろに振りまわされ、ひと休みしたいときにおすすめです。矢部太郎さんの世界にひたって、心をおひさまでぽかぽかと。矢部さんへのインタビューとQ&A集も掲載。





明日へつづく「まいにち」をつむぐ

器をつくる鹿児島睦の「まいにち」と、だれかの「まいにち」をしあわせにする器と。交互にあしらうことで見えてくる、一枚一枚の器がたたえる手のぬくみ。鹿児島睦の「まいにち」を感じながら、自分自身の明日へとつづく「まいにち」に思いをはせる一冊。

ガラス



「ガラス食器」について無限の思いをめぐらせる

画家がリクエストしたガラス食器を山野が作り、画家はそれを絵に描き、描かれた静物画とガラス食器を画家のアトリエで撮影したものを本に編むというプロジェクト。中心で奮闘し続けた山野の言葉で生き生きと綴った日記的エッセイ。

ガラスの器と静物画

山野アンダーソン陽子と18人の画家



「ガラス食器」について無限の思いをめぐらせる

図録のために撮り下ろした出品作品（絵画、ガラス、写真）の図版、全作品リストを収録するほか、山野のインタビュー、各会場のキュレーターによる論考、ガラス史の専門家によるコラムなど充実のテキストで、展覧会の全貌をたどれる一冊。

フォロンを追いかけて Book 2

フォロンを追いかけて撮り下ろした写真と
気配を感じる言葉で

フォロンを「感じる」本。フォロンが愛したパリ近郊の小さな農村ビュルシーの家にはじまり、世界への足掛かりをつかんだパリからブリュッセルへ。地下鉄駅の巨大な壁画、郊外にあるラ・ユルプの美しい森と湖。フォロンを追いかける旅はどこまでも。

柚木沙弥郎 おじいちゃんと私



家族アルバムを見ているような温かさ

孫である丸山祐子さんが祖父・柚木沙弥郎の記憶、活動、言葉を書きためた「samiro ノート」をベースに紡いだ、101の写真とエピソード。アーティストに対する真摯な眼差しと家族ならではの温かい語り口のバランスが絶妙。

「鹿児島睦さんの新作の器を見て、
お話を作っていましたか」

依頼を受けた作家の梨木香歩さんは、色や形のさまざまな器に草花に馬や象、蛇などの生き物が描かれた200点の作品を1枚ずつ繰り返し見ながら物語を紡ぎました。梨木さんの物語を受け取った鹿児島睦さんは、ラストシーンに新しい1枚を制作しました。

はじめまして、
ルート・ブリュック

かわいらしさと陶器の美しさにうっとり

フィンランドを代表するセラミック・アーティスト、ルート・ブリュック。愛らしい陶板から公共建築の大型壁画まで、かわいらしさと美しさを堪能できる多彩な作品の数々をそっと眺めてみてください。

フォロンを追いかけて Book 1



初期ドローイングとプールの質問帖から

フォロンを「知る」本。ジャン＝ミッシェル・フォロンは、ユーモラスな線描、美しい色彩とファンタジックな世界観、そして人類に警鐘を鳴らす強いメッセージを描いたベルギー人のアーティスト。みずみずしい記憶からフォロンの魅力に迫ります。

空想旅行案内人

ジャン＝ミッシェル・フォロン



時空を超えた空想の旅へと連れ出してくれる

初期のドローイングから水彩画、版画、ポスター、晩年の立体作品までを網羅。インクや墨による軽妙な線はユーモアとぬくもりが漂い、溶け合うような色彩のグラデーションは美しい。フォロンの丁寧な観察や思考が垣間見える数々の作品を集めた1冊。

柚木沙弥郎 Tomorrow



染色家・柚木沙弥郎とイデー・大島忠智

工芸とアートを横断する柚木作品を通じて、豊かな暮らしを提案することを二人は「草の根運動」と呼び、活動の幅を広げています。柚木と大島がこれまで見出し、これから目指すもの。アートと暮らしのよりよい関係とは。

World's End

写真はいつも世界の終わりを続ける



夢のように移ろいゆく「世界の終わり」を映し出す

写真家・高橋恭司が映画監督デレク・ジャーマンが亡くなる 2 年前の 1992 年にダンジェネスを訪れた。ジャーマンの気配が感じられる小屋や庭と、2010 年代後半のベルリン、ロンドン、東京の路上。時間と空間を隔てて撮影された写真が混じり合う。

カウズ・ハンドブック



だが、KAWS とは誰なのか？

グラフィティ、絵画、プロダクトデザイン、巨大彫刻など、アートやデザイン、そのほか様々な表現領域を軽々と越境する数々の作品を通じて、KAWS は何を表そうとしているのか。なぜこれほど注目を集めるのか。美術評論家のカルロ・マコーミックが解説。

DOUBLE FANTASY

- John & Yoko



ジョンとヨーコの人生を追体験する 536 ページ

1966 年、世界的ロック・スターのジョン・レノンと、前衛芸術の最先端にいたオノ・ヨーコが恋に落ちた。終わらない戦争、人種的抑圧、性差別 世界的苦境の中で、二人は愛と平和を訴え続けた。音楽とアートの力を信じて――。

山口啓介 後ろむきに前に歩く



イメージと言葉を行きつ戻りつしながら

原発に向かい歩き出す方舟、片目を共有する 2 つの顔、《震災後ノート》。混迷する世界で美術とともに生きること。作品図版や作家自身の言葉と文章、アトリエの撮りおろし写真やロングインタビュー掲載。美術家の創作と思索をイメージと言葉でたどる本。

KAWS TOKYO FIRST



洗練されたユーモア、大胆で遊び心溢れる作品

1993 年から 2021 年におよぶ伝説的なグラフィティからプロダクト、世界各地でのパブリックアートへ限界なく広がる活動をとらえた写真が時系列に組み合わせられた日本初となる本格的アートブック。デザインスタジオ 2x4 が手がけた特別な一冊です。

バスキア展 メイド・イン・ジャパン



日本の歴史や文化がバスキアに与えた影響とは

バスキア研究の世界的権威ディーター・ブッフハート氏が、バスキアと日本の多方面にわたる絆を明らかに。世界各地から集めた約 130 点の絵画やオブジェ、ドローイングの図版のほか、専門家によるエッセーやポートレート、年表などを収録した決定版。

前田真三写真集 HILL TO HILL



美瑛の豊かな自然が楽しめる写真集

北海道の四季折々のイメージは、日本人が抱く北海道の心象風景として定着してきたといっても過言ではありません。さまざまな丘の稜線をグラフィカルにつなぐことで、季節や時代を越え、ページからページへと丘がつながり写真家と旅をするような一冊に。

南インド キッチンの旅



キッチンから見えるインドの豊かな風景

建築家・デザイナーの齋藤さんが、南インドに滞在した 3 ヶ月間に 21 のキッチンを訪問。料理を作りながらおしゃべりし、一緒にごはんを食べる。そんなシンプルな行為を通して、人々の等身大の暮らしや豊かな文化が見えてきます。

タピオ・ヴィルカラ



北欧デザインの巨匠を日本語で紹介する初の本

タピオ・ヴィルカラ自らが監修した『TAPIO WIRKKALA』を復刻。イッタラで人気のガラス、ウルティマ・ツレはフィンランドの流水から想起され作られたもの。多彩な領域で活躍したヴィルカラの思考や手法を感じとれる 1 冊。

